

名島神社の歴史年表

世紀	西暦	年号	名島の歴史	備考
三世紀後半			名島古墳二基	
四世紀			神功皇后新羅より帰らせ給う時も黒津に上らせ給い、ご祈願の如く三女神の祠を建て、供の官人を残し社務に当らせた。	香椎廟宮記
九世紀	837年	承和4年	慈覚大師円仁中国より帰国一説に名島宮に弁才天を勧請したとも云われている。	847年に帰朝(日本史年表)
十四世紀			中世には弁才天信仰が盛んと成り厳島神社なども市杵島姫命を仏名に替え弁才天と称した。	厳島神社は紀伊国の天川弁才天に次ぐ日本第二の弁才天である。溪嵐拾葉集(鎌倉時代末期編纂)
	1374年	応安7年	9月足利義満参詣	社務吉村外記公忠に名島宮の建立を命ず(香椎廟宮記)
	1375年	永和元年	6月名島宮完成	
十五世紀	1459年	長禄3年	大内教弘・政弘父子参詣	
十六世紀	1568年	永禄11年	4月24日大友と立花の戦火に社殿は灰燼に帰す。	
	1579年	天正7年	立花道雪に請願し造営される。	
	1586年	天正14年	7月薩摩勢の立花城攻めの時名島宮焼失する。	
	1587年	天正15年	豊臣秀吉参詣	弁才天は福神なるに荒れて淋しき貧神なりとて笑い給う。但し、此時焼失の為仮殿のままであった
			小早川隆景神社境内に城を築き社殿を海邊に移す	
1595年	文禄4年	小早川秀秋入城	神領を没収、祭祀も衰える	
十七世紀	1624~1643	寛永年間	宗栄寺創建	
	1633年	寛永10年	名島宮本殿、諸堂とも焼失	
	1648~1651	慶安年間	名島宮造営し、旧に復す。	
	1696年	元禄9年	4代藩主黒田綱政社殿築造	
十九世紀	1821年	文政4年	10年がかりの大改修を開始	
	1830年	文政13年	10代藩主黒田齊清社殿を再建	
	1868年	明治元年	神仏分離令が公布され、神宮寺は廃寺と成り、弁財天は各地に転御した。	
	1874年	明治7年	弁才天は宗栄寺に附せらる。	
		明治年間	名島神社拝殿建築	拝殿は現在の宗栄寺薬師堂
二十世紀	1911年	明治44年	本殿屋根を修理	
	1926年	大正15年	宗栄寺山下より現在地に移転新築	
		昭和後期	名島神社社務所建替え	
	1991年	平成3年	19号台風被害、翌年改修	
二十一世紀	2011年	平成23年	本殿大改修、拝殿改築	
	2012年	平成24年	本殿玉垣新設	

名島城の歴史年表

世紀	西暦	年号	名島の歴史	備考
三世紀後半			名島古墳二基	
四世紀			神功皇后新羅より帰らせ給う時も黒津に上らせ給い、ご祈願の如く三女神の祠を建て、供の官人を残し社務に当らせた。	香椎廟宮記
十六世紀	1532年～ 1555年	天文年間	豊後の大名大友氏が筑前支配の戦略的拠点として立花山山頂に立花城を築き、その出城として大友(立花)鑑載(あき年)によって名島に築城された。	
	1586年	天正14年	7月薩摩勢の立花城攻めの時名島宮焼失する。	博多の町は島津の焼き討ち等度重なる戦火により瓦礫の町と成っていた。
	1587年	天正15年	豊臣秀吉は、薩摩の島津義久を降伏させ九州を平定し、その先鋒として活躍した小早川隆景を筑前の国の国主任じ、隆景は立花城に入城した。	隆景は、筑前一国の他に筑後三井、三原・肥前基肆、養父の二郡を付与され七十数万石の大名となった。
	1588年	天正16年	立花城は大国筑前を治めるには不便であることから、2月25日に名島城の築城を開始した。(宗湛日記に記録)	隆景は三原城主として瀬戸内海を支配していた村上水軍を配下においていたことから、三方海に囲まれている名島に築城した。
			小早川隆景は名島時代に、家臣、領民の教育の為、学校を建てたと伝えられている。「…名島城ヲ築ク時ニ、乱日久シク、人学ヲ知サズ、公之ヲ概シ、下野足利学校ニ倣ヒ、学者ヲ設ケ、聖廟ヲ建テ、士庶ヲシテ学ニ就カシメ、親ラ之ヲ奨励ス…」	参考文献 ・国書刊行事実文編 二 小早川隆景伝 ・甲子夜話 十八(松浦静山書) 名島城址に「石碑文」が建てられている。
	1595年	文禄4年	小早川秀俊(のちに秀秋)入城	寧々の兄木下家定の五男で、秀吉の養子として育てられたが、淀君に男子(秀頼)が誕生し、小早川家の養子となった。
	1597年	慶長2年	慶長の役に秀俊出陣するが、前線での軽率な行動を問われ即時召喚された。	
	1598年	慶長3年	越前国に転封され、その後新たに石田三成が代官として入国 秀吉の死後、秀秋は復領した。(後見人として、山口玄番頭宗永が政務を執る)	
	1600年	慶長5年	小早川秀秋は関ヶ原の戦いの勝利に貢献し、備前・美作五十一万石に加増転封となった。 黒田長政名島城に入城	
	1601年	慶長6年	福岡城築城し、名島城は廃城となった。	

* 博多の豪商神屋宗湛が記した「宗湛日記」には、名島城及びその周辺で催された茶会の記事が屢々登場する。1588年(天正16年)3月27日には名島妙見島で、1591年(天正19年)4月10日には弁才天で、また、天正17～19年の正月には、名島城で、それぞれ宗湛を迎えて茶会が催されている。更に、名島城に下向したばかりの小早川秀俊のもとに宗湛の子金十郎が出向いた話や「博多の松ばやし」名島城内で見物した話など興味深い記事を数多く載せている。

* 名島城の遺構・遺物

- (1) 唐門……博多区千代、崇福寺の唐門
- (2) 搦手門……宗像市大穂、宗生寺の山門
- (3) 脇門……中央区、城内の名島門
- (4) 裏門……宮若市湯原、東禅寺の山門
- (5) 障壁画(襖絵)「梅に鴉図」(重要文化財)……京都国立博物館、毛利家御用絵師の雲谷等顔筆
- (6) 鯨、瓦の破片……東区、筥崎宮